

教育目標「考える子 思いやりのある子 たくましい子」

せんだんの木



伊勢崎市立茂呂小学校 学校だより No.9 令和5年9月8日

全国学力・学習状況調査の結果

4月に6年生を対象に実施した「令和5年度全国学力・学習状況調査（国語、算数、児童質問紙調査）」の結果が国から届き、良かったところや課題（対応策）について校内で分析を行いましたのでお知らせします（6年生には一人一人に結果（個票）を返却されます）。なお、本調査は児童が身に付けるべき学力の一部であり、学校における教育活動の一側面を調査したものであることにご留意ください。

国語

本校は、全国平均正答率よりやや高い結果となっています

【良かったところ】

教科書で扱った熟語や日常的に使っている言葉については身に付いており、日々の家庭学習での漢字練習等の成果が出ていると思われます。また、場面に応じた適切な語句や表現を選ぶことができていることは、読書活動の成果が出ていると考えられます。今後も、日々の漢字練習やドリル、読書を続けることで、基本的な知識・技能を高めていきたいと思えます。

【課題と改善点】

複数の資料を読み取って自分の意見を書く問題については、全国平均よりもやや低い結果となりました。物語全体のイメージを持ったり表現に着目して読み取ったりする点で、どこまで読み取るとさらに深い内容の理解につながるのかの認識にずれが生じているようです。文章を読み取る際のポイントを共に考えたり、友達同士で比較したりすることを通して、思考力や読解力をつけていきたいと思えます。また、自分の意見や考えを端的に文章にまとめる練習や、自分の考えや根拠を明確にして伝え合う言語活動を充実させていくことで、さらに表現力を伸ばしていきたいと思えます。

算数

本校は、全国平均正答率よりやや低い結果となっています

【良かったところ】

「数と計算」が全国平均よりもやや高い結果となりました。日々の家庭学習での計算ドリル等の取り組みの成果が出ていると思えます。今後も、ドリルやプリント等を用いて基本的な知識や技能の習熟に取り組んでいきたいと思えます。

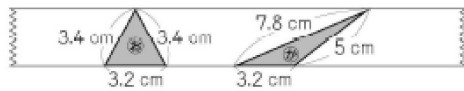
【課題と改善点】

「図形」「変化と関係」が全国平均よりもやや低い結果となりました。デジタル教科書や電子黒板を用いて視覚的にとらえられるようにしたり、具体物の操作活動を取り入れたりして体験的にとらえられるようにしていきたいと思えます。また、算数で学んだ学習内容を実際の生活経験と結び付けたり、日常生活での活用場面を示したりすることで、実感を伴った、より深い理解へとつなげていけるように指導を工夫していきたいと思えます。さらに、式や図表等を用いて、自分の考えを説明する活動を設定して表現力を高めていきたいと思えます。

※茂呂小ブログでも学校の様子を紹介しています

<http://isesaki-morosyou.blogspot.com/>

(4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような(お)と(か)の2つの三角形をつくります。



上の(お)と(か)の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。
 下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。
 また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 (お)の面積のほうが大きい。
- 2 (か)の面積のほうが大きい。
- 3 (お)と(か)の面積は等しい。
- 4 (お)と(か)の面積は、このままでは比べることができない。

約4割の子供が「4」と回答していました。授業の中で、図形を構成する要素などに着目させて、基本図形の面積の求め方を見いだすとともに、その表現を振り返り、簡潔で的確な表現に高め、公式として導くような指導をしていきたいと思えます。併せて、単なる暗記ではなく、具体的操作や日常生活での場面を取り上げながら、考え表現する活動も充実させていきたいと思えます。

16問中、最も正答率が低かったのが左の問題でした（全国の正答率20.8%）。

この問題は「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題」でした。

正解は「3」で、理由は「三角形の面積は底辺×高さ÷2で求めることができます。(お)と(か)の底辺はどちらも3.2cmなので等しいです。(お)と(か)の高さはテープの幅がどこも同じ長さなので等しいです。だから、(お)と(か)の面積は等しいです」となりますが、本校では約3割の子供が「2」、

児童質問紙

思いやりや規範意識、学習へ向かう姿勢等は確実に身に付いています

【相談しやすい雰囲気作りに関して】

「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」という質問項目では、全国に比べて肯定的な回答が多くなっています。毎月なかよしアンケートを実施したり、日頃から先生に聞きやすい雰囲気づくりを行っている成果と考えます。今後も、話しやすい・聞きやすい雰囲気づくり、子供たちへの声かけに努め、温かな学級・学校作りを一層進めていきたいと思えます。

【ICT機器の活用に関して】

「5年生までに受けた授業でPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか」「5年生までに受けた授業で自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立て等を工夫して発表しましたか」の質問項目では、全国に比べて肯定的な回答が多くなっています。各教科の授業で、タブレット端末を有効に活用し、発表を中心とした授業スタイルをとるようになってきたためと思われまます。今後も子供たちが主体となって取り組む授業を進めていきたいと思えます。

【読書に関して】

「読書は好きですか」の質問項目は全国に比べて肯定的な回答が多くなっている一方で、「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、一日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」、「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか」の質問項目に対する肯定的な回答の割合が全国より低くなっており、「読書は好きだが、読書時間は少ない」傾向が見られます。朝読書や朝の読み聞かせ等の読書活動や、授業の中でも図書室を利用する時間を確保するなどしていきまますが、ご家庭でも読書時間や新聞を読む機会の確保をするとともに、読書習慣が身に付くようご協力をお願いします。

【家庭学習の量と質に関して】

全国・県と比べ、平日や休日の家庭での学習時間が少なく、しかも年々減っている傾向にあります。また「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)」という質問に肯定的な回答が少ないので、宿題だけではなく自分で考えた学習に取り組めるようにチャレンジノート等の取組を充実させていきたいと思えます。